

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 三瀬 僚太  
所属 (School) 生命環境科学域 応用生命科学類  
学年 (Grade) B4

留学先 (Name of overseas institution)  
University Institute of Technology La Rochelle  
留学期間 (study abroad period)  
2019/5/13~2019/6/18

記入日 (Date) 2019/6/20

## 留学レポート Study Abroad Report

私は2019年5月14日から2019年6月17日にかけて一か月間という短い期間でしたが、フランスのラ・ロシェル大学に研究留学しました。

### ●留学を志望した理由

植物病害の防除に関する卒論のテーマとは別に、自分の研究テーマで取り扱っている生物資源の有効成分同定をしてみたいという旨を教授に伝えたところ、研究室で毎年交換留学生を受け入れていて、繋がりのあるラ・ロシェル大学に、生理活性物質の同定に長けた研究室があるので、折角ならば交換留学生として短期留学をしてみたいというお話をいただき、留学を考えるようになりました。

### ●研究内容

実際に留学するとなった段階で目的の生物資源の調製が間に合わず、受け入れ先の研究室の研究を体験させていただき、インターンシップといった形の留学になりました。受け入れ先のラ・ロシェル大学の研究室では癌細胞に対して効率よく有効成分を届けるナノ粒子医薬の創薬に関する研究を体験させていただきました。自分の学んでいた専門領域とは大きく異なる分野だったので初めのうちは大変でしたが、研究室の教授やポスドク、学生の皆さんに丁寧に研究計画や手法について説明をしていただき、また、論文を紹介していただいで読み込んでいるうちに理論や目的を理解して意欲的に取り組むことができました。



### ●短期留学を通じて学んだこと

研究室では皆さん英語を話せる方ばかりだったので、町に出た時ほど困ることはなかったのですが、研究の話になると専門用語も多く、相手が何を言っているのか分からないことが何度もありました。最初のうちは聞き返すのが恥ずかしく、迷惑かなと考えていたので、取り敢えずわかったフリをしていました。しかし、分からないまま実験をしてもモチベーションを維持できず、また間違えた操作で迷惑をかけてしまうことがありました。その反省から、わからなければとことん聞いて、理解できるまで話すことが本当に大切だと思いました。また、話を追えなくなったときにはできるだけその都度確認する癖をつけました。今後留学をする方も、現地で無用な不安にならないために、とにかくわからないことを作らないことが大切だと思います。

●現地での生活



僕が滞在したラ・ロシェルという港町はヨーロッパ有数のマリーナを持つ観光地ではありますが、パリからTGVで二時間半ほど離れた町であるため、海外の旅行者は少なく、英語が通じない場面も多々ありました。しかし、フレンドリーな方ばかりだったので身振り手振りで大抵は何とかなりました。また、時には英語を話せる親切な方が助けてくれるときもありました。本当にありがたかったです。



食事に関しては、フランスはとにかく物価が高く、特に外食をすると日本との二倍程度もかかりました。しかし、それらは値段に見合ったおいしさで、本当においしかったです。僕は特に写真左のフロマージュ・ハンバーガー(15€/約 1950 円)が気に入りました。一方で、スーパーや市場で売っている野菜や食品は安かったため、大学で食べる昼ご飯以外の食事は基本的に自炊で賄っていました。最終的には作れるパスタのレパートリーが増えたのでいい経験になりましたが、やはり短期留学だとあまり調味料等を買込むことができず、味が単調になってしまったので、少量の調味料くらいは持って行った方が良かったかもしれません。また、日本の調味料や食材は普通のスーパーでも売られていましたが、やはり少し高く、頻繁に使うことができなかつたため、日本食が恋しくなることもありました。



また、高緯度地域ということもあって夜は 22 時くらいまで明るく、(左の写真は 23 時ごろ) 17 時ごろに研究室を終えてからでも旧市街に遊びに行ったり、海辺をランニングしたりなど様々な充実した時間の使い方をできました。町中には公園や遊歩道が整備されており、特に旧市街は散歩しているだけでも楽しい、とても綺麗な街並みでした。